

平成18年10月20日

禁煙推進学術ネットワーク

藤原 久義 様

拝 啓

時下ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

このたび禁煙推進学術ネットワーク様から頂戴いたしましたお手紙につきまして、ご回答申し上げます。

弊社は、他の交通手段に比べ格段に多くのお客さまにご利用いただく鉄道事業の特性を踏まえ、弊社線をご利用になるお客さまの多様なご要望に最大限お応えするサービスを提供することに努めてまいりました。また、列車内や駅での喫煙につきましては、健康増進法の趣旨に沿う形で、分煙化の徹底のため、これまで、できる限りの方策を実施しております。

駅につきましては、各駅の状況や列車の停止位置、お客様の流動等を考慮しつつ、屋外のホーム上に喫煙コーナーを設け、その他の箇所は全面禁煙とすることで、分煙化の徹底に努めております。

また、東海道新幹線では、平成14年2月までに全喫煙車両に新たに技術開発し清浄能力を高めた空気清浄器を設置、平成16年12月からは喫煙車両と禁煙車両の間のデッキの灰皿を撤去するなど、分煙化をより効果的にするための車内環境整備を進めているほか、平成18年3月には、お客様のご利用状況を踏まえて、全16両のうち禁煙車両を11両から12両（約75%）に拡大して禁煙車両の適正な設定に努めてまいりました。

さらに、平成19年度以降順次投入する次世代新幹線N700系においては「全座席禁煙」とし、喫煙はデッキに設置する喫煙ルームでのみ可能とすることで、更なる分煙化に努めます。この喫煙ルームには、強力な排煙装置や光触媒脱臭装置を設置いたします。

在来線特急・急行列車につきましては、現在、列車により若干の違いはあるものの、トータルで約7割を禁煙車両としております。在来線普通列車の車内では、従来より全面禁煙にご協力いただいております。

乗務員につきましては、既述の車内環境の整備を進める他、年2回の定期健康診断を実施しており、これらを通じて今後も健康管理には十分努めてまいります。

なお、当社が所有する列車のうち、東海道新幹線喫煙号車間を除きましては、新幹線および在来線特急列車のデッキに灰皿はございません。

これからもお客さまの動向やご要望などを踏まえつつ、努力を重ねてまいりますので、引き続きご愛顧を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

敬 具

東海旅客鉄道株式会社 広報部